

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2014年12月号 通巻72号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2014

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

タヌキ、隙間をくぐり抜ける 10cmあれば十分です



(左)どこにでもある鉄柵の扉。縦棒の間隔は10cmあるので余裕でくぐれる。

(右)金網フェンスの破れも通り道になる。そこだけ草が生えておらず動物が日常的に利用しているのがわかる。ここはタヌキとネコが共用していた。

タヌキが住宅街でどのような行動をしているのか、その追跡は簡単なことではありません。それでも、運動能力を調べることによって部分的な行動がわかることがあります。

大したことはない運動能力

タヌキの運動能力はそれほどでもなく、塀やフェンスを登ることはありません。つまり、基本的には地面を移動する動物なのです。私が早くから注目していたのは、どれだけ狭い隙間をくぐり抜けることができるのか、ということでした。これがわかればタヌキの行動の推測にかなり役に立ちます。結論を言うと、幅でも高さでも10cmの隙間があればくぐり抜けることができます。かなり狭くはありますが、タヌキは小型犬サイズなので難なくできてしまいます。タヌキは縦横10cmの正方形でもくぐり抜けます。これはその現場に私がいたのですが、ちょっと目を離した隙に姿を消してしまい直接目撃することはできませんでした。タ

ヌキが通れそうな場所は門に空いた四角の穴しかありませんでしたので、そこをくぐったのは確かです。

フェンスの下の隙間をくぐる場所では地面が少し削られていることがあります。これは何らかの動物が日常的に通行していることの証拠になります。このような隙間はタヌキだけでなくネコもハクビシンも利用するでしょう。センサーカメラで待ち伏せするならばこのような「ボトルネック」を狙うのが定石です。

ちなみにハクビシンはもう少し狭い8cm程度の隙間でもくぐれるようです。このことを逆に考えれば、ハクビシンなどの侵入を防止するには8cm以上の隙間(できれば5cm以上)を埋めたりふさいだりすればいいことになります。

超絶！ハクビシン

タヌキではある程度、通り道を推測することができて、ハクビシンではうまくいきません。なぜならハクビシンの運動能力は超絶と言って

もいいもので、塀やフェンスや雨どいを登り、電線を歩くこともでき、どこに現れるか予想すらできないからなのです。

それでもハクビシンが現れそうな場所があります。それは実がなった樹木です。例えば柿や柑橘類が代表です。ハクビシンは果実が好物ですので、それを食べにやって来る可能性は高くなります。

運動能力についての知識は障害物のない山野ではまったく意味がありません。ところが住宅地では重要な手がかりになります。また、運動能力の理解は農業被害などの対策を考える上でも必要な知識です。東京タヌキ探検隊！は生息分布だけではなくこういうことも調べています。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>